

## ◆優良賞◆

### 嫌いな理由と好きな理由

浜 岳 中 学 校 三 年

佐 藤 瑠 莉

私は勉強が嫌いだ。学校の先生や私の両親は、勉強をすれば将来の役に立つし、自分の可能性を広げられるのだいつも言ってくる。しかし、私はその言葉をどうしても素直に受け入れることができないでいる。スポーツをしたり、音楽を聴いたりすることは大好きなのに。なぜ私は勉強が嫌いなのだろうか。その理由を考えてみることにした。

私が考える第一の理由は、「やらされている」と感じるからである。例えば、私の大好きなピアノは、自分から楽しく練習に取り組むことができる。しかし、勉強は、テストの点数や、課題の提出など、外から与えられた基準で評価されることが多い。だから、自分の意思ではなく「やらされている」という気持ちになり、楽しさよりも義務感が先に立ってしまうのだと考える。

第二の理由は、「役に立つ実感を持ちにくい」と考えているからである。例えば、歴史の年号を覚えたり、数学の複雑な公式を解いたりすることは、自分の将来にどのように役立つのか分からない。大人になればその重要さを理解できるかもしれないが、今の私にとっては、「なぜそれを覚える必要があるのか」という疑問が先に浮かんでしまい、勉強することを無意味に感じてしまう。

このように理由を考えてみると、私が自ら勉強を嫌いになっているのだと

思った。私の大好きなピアノは、勉強のように、「なぜするのか」ということは考えたことがない。ただ、「楽しいから」やっているのだ。勉強も、本来は、新しいことを知ることができる、とても楽しいものであると考える。しかし、学校教育や周囲の期待の中で「嫌い」という感情が生まれてしまっているのだろう。

私のように勉強が嫌いと思っている人は少なくないと思う。しかし、高校生、大学生、社会人になっても勉強は続いていく。だからこそ、私は「勉強が嫌い」と言い切るのではなく、「どうすれば勉強を楽しめるか」を考えようになりたい。このように考えるだけでも、勉強に対する気持ちも変わるかもしれない。

私はまだ、勉強をしようとすると、手が止まってしまうことがあるけれど、その理由を考え、自分なりに工夫して取り組もうと思う。勉強を楽しいと思えるように、今日も考え、手を動かしていく。